

放送大学における地域貢献の可能性  
群馬学習センターにおける福祉シンポ開催を通して

生活と福祉 山田知子

1. 地域文化の拠点としての学習センター
  - 1) 中高年齢者の学びの拠点として定着  
問題解決型の学びの必要  
学びの成果を地域貢献活動に活かしていく  
地域の団体との連携で組織的な活動
  - 2) まちづくりや少子高齢化社会の問題解決のための拠点としての機能は弱いのではないか  
人口減少は地方都市の共通の課題  
高齢化への対応も共通の課題  
地域包括ケアシステム、地域包括支援センター
  - 3) 行政の縦割りを超えた取り組み  
文科省、厚労省、都道府県や市町村との連携  
「地方創生」との連携
  - 4) 福祉の施設機関等で働く人々は学びのチャンスを求めている  
保育、介護職員は高卒、専門学校、短大卒がほとんどで、大卒の資格を得ることによって待遇改善の可能性はある。
  
2. 群馬学習センターにおける福祉シンポ開催から見えてくる地域貢献の方向性
  - 1) 人口急減社会におけるまちづくり—地域包括支援センターと市民連携
  - 2) 参加者数（事前申し込み60名、当日41名、計101名）
  - 3) 地元出身の研究者、施設機関の実践者を基調講演、シンポジスト
  - 4) 空洞化する中心市街地、高齢者の多様な生活問題に対して、放送大学、放送大学で学ぶ学生がどうかかわることができるのか明確化
  - 5) 放送大学が地域の福祉の学びの拠点、地域活動の拠点となる可能性
    - ・職安との連携—高齢者の就職相談
    - ・地域包括支援センターとの連携—認知症や介護問題などの生活相談、虐待防止、成年後見制度などの情報提供
    - ・社会福祉協議会との連携—ボランティア活動のコーディネート
    - ・市民のまちづくり活動への積極的参加
    - ・産業振興課との連携—起業支援
    - ・学生の組織化、学生力
      - \* 「地方創生」の実験所としての学習センター
      - \* 地域貢献の実践家としての学生を活用
  - 6) 文科省の垣根を超える
  - 7) 施設の地域開放による有効活用
  
3. いくつかの課題
  - 1) 広報
  - 2) センター教職員の仕事量（面接授業、単位認定試験）と意識
  - 3) 自治体との連携、福祉系施設機関との連携